ミニシンポジウム

貝毒対策の問題点*¹野口玉雄*² (東大農), 宮澤啓輔*³ (広大生物生産), 松居 隆*⁴ (東大農)

まえがき

我が国の水産ならびに公衆衛生上問題になる貝毒は主に麻痹性貝毒と下痢性貝毒である。その中毒防止対策として一定レベル以上の毒性値になると出荷を自主規制してきたことによりさしたる問題がなかった。しかし、最近の一、二年重要養殖貝類の毒化範囲が内外で拡大し、抜本的な毒化予防対策が強く望まれている。そこで、本シンポジウムでは貝毒対策の現状を広く把握して、問題点を整理し、新しい対策を考えたく企画した。

貝毒対策の問題点

企画責任者 野口玉雄 (東大農), 宮澤啓輔 (広大生物生産), 松居 隆 (東大農)

開会の挨拶

宮澤啓輔 (広大生物生産)

座長 大島泰克 (東北大農)

1. 貝毒対策の現状および問題点 野口玉雄 (東大農)

2. 貝毒対策への行政対応 野村真郷 (水産庁)

座長 大和田紘一 (東大海洋研)

3. 貝毒検査法の問題点ならびに展望

松居 隆 (東大農)

4. 日本における最近の貝類の毒化状況

宮澤啓輔 (広大生物生産)

5. ブランクトン研究からの貝毒対策・モニタリング法の検討 内田卓志 (南西水研)

6. 総合討論

座長 野口玉雄 (東大農)

福代康夫 (東大農)

松居 隆 (東大農)

閉会の挨拶

*¹ Shellfish Poisoning in Japan, with Special Reference to Counterplans and Problems.

*² Tamao Noguchi (Laboratory of Marine Biochemistry, Faculty of Agriculture, The University of Tokyo, Bunkyo, Tokyo 113, Japan).

*³ Keisuke Miyazawa (Faculty of Applied Biological Science, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima, Hiroshima 724, Japan).

*⁴ Takashi Matsui (Laboratory of Marine Biochemistry, Faculty of Agriculture, The University of Tokyo, Bunkyo, Tokyo 113, Japan).